



一人一句

令和八年七月一人一句

第四二九回

兼題・涼し・夏季一切

ガラス戸に焼けロザリオ長崎忌

敏子

薬玉効より祖母の守り袋

里美

太宰忌やかつてこの地に跨線橋

和宏

夏木立ジブリの森のファンタジー

恵子

原爆や記憶の中の鉛色

訓

梅雨晴れの水たまり突く黄色傘

潤一郎

語り部は被爆樹木や広島忌

寿子

仕事終へ子の手を引いて茅の輪かな

昭子

ダイヤより涙は硬し原爆忌

六斗